

2009.1.22 LCA 日本フォーラム事務局

【活動概要】

第2期 LCA 国家プロジェクトにて開発された環境影響評価手法「LIME2」の活用方法の検討を目的として、フォーラム会員企業から12社が参加し、事例研究を進めている。ワーキンググループ終了後には、成果物としての「報告書」の作成および平成20年6月3日 LCA 日本フォーラム総会併設セミナーとして報告会を開催し、得られた成果を公表した。

【参加企業と評価対象】

① 富士通研究所 「ICT ソリューション」

ドキュメント電子化について評価。紙消費量削減による資源消費量削減などの効果が顕著であることが確認された。

② 三菱自動車 「竹繊維テールゲートトリム」

自動車部品「テールゲートトリム」について、従来の PP 製と比較して、原油消費量の低減と温室効果ガス低減が確認された。

③ トステム 「VOC 吸着・吸湿性建材」

VOC 吸着機能のある内装材（商品名：モイス）と従来壁（石膏ボード+PVC クロス）を評価。使用時の健康被害（ホルムアルデヒドによる影響）の削減効果が特に顕著であることが確認された。

④ 日立製作所 「液晶プロジェクタ」

液晶プロジェクタによりデジタルハイビジョン映像を観た場合の影響評価。環境配慮設計に活用可能なライフサイクルの段階別環境負荷が定量化された。

⑤ ユニチャーム 「自動採尿機」

介護者の負担、紙おむつの交換頻度の低減を目的とした自動採尿機について評価。紙おむつの製造および廃棄における環境影響の削減が確認された。

⑥ 東芝 「家電など30製品」

一例として、家庭用エアコンでは基準年製品から評価年製品の環境負荷を比較。使用段階での被害評価が大きく、省エネ性能の向上による低減が純粋に効いていることが確認された。

⑦ 富士電機システムズ 「配電盤」

省エネ化、軽量化、およびクロムフリー鋼板の使用による環境影響削減効果を評価した。省エネと軽量化による影響低減効果が確認された。

⑧ 中部電力 「発電事業」

石炭火力発電について新旧技術比較を行うと共に、原子力発電における燃料調達プロセスでの海外電力消費に関わる影響がどの程度あるのかを確認した。

⑨ 日産自動車 「事業活動」

（詳細は最終回 WG にて報告。）

⑩ リコー「再生複写機」

再生複写機とは中古品ではなく、廃製品をばらして組み上げ直したもの。新造品と再生品、およびリサイクルの有無を考慮してシナリオを設定し、各シナリオの効果について分析。

⑪ 東洋製罐「タルク缶」

リサイクル率の変化による評価結果の違いについて検討を行った。リサイクル率の低下はリサイクル効果の低減だけでなく廃棄物増加への影響も現れていた。

⑫ 積水化学工業「パーティクルボード」

タンニン接着剤と API 接着剤の利用を想定して両者の影響を比較。タンニンを海外で製造・輸送する際の負荷の影響が大きく現れているようである。バージン材と再生材の違いによる影響についても検討の余地あり。

【スケジュール】

- 第1回 (07年09月終了) 評価対象についての紹介と評価目的・調査範囲等の確認
- 第2回 (07年11月終了) LCI データの確認および LIME 計算シートの利用方法習得
- 第3回 (07年12月終了) LIME 計算シートを利用した評価実施結果報告 (1)
- 第4回 (08年01月終了) LIME 計算シートを利用した評価実施結果報告 (2)
- 第5回 (08年03月終了) LCI データ等の見直しによる評価結果の再検証
- 第6回 (08年05月9日) まとめ・報告書等に関する議論

【報告書】

2009年1月末に LCA 日本フォーラムホームページ上でアップロードされる他、フォーラムの活動成果として内外へ活用予定。

【研究成果報告会】

2008年6月3日 LCA 日本フォーラム総会終了後の記念セミナーにて、参加4社の事例発表および今後の活用等をテーマにパネルディスカッションが実施された。

【メンバー】

委員長 伊坪徳宏 (武蔵工業大学)

委員 本下晶晴 (産業技術総合研究所)、竹山典男、本堂義行 (東芝)、平井真紀子 (リコー)、飯田創治、森久雄 (三菱自動車工業)、中島古史郎 (積水化学工業)、濱塚康宏、西口文乃 (日立製作所)、増田昌彦 (富士電機システムズ)、桑原隆 (富士電機アドバンステクノロジー)、小椋信明 (ユニ・チャーム)、加藤安紀 (中部電力)、寅丸武司 (日本エヌ・ユー・エス)、大場寛之、峯弘 (トステム)、政木敦夫 (東洋製罐)、鈴木重治 (富士通研究所)

事務局 壁谷、青木、中野、山岸、小粥